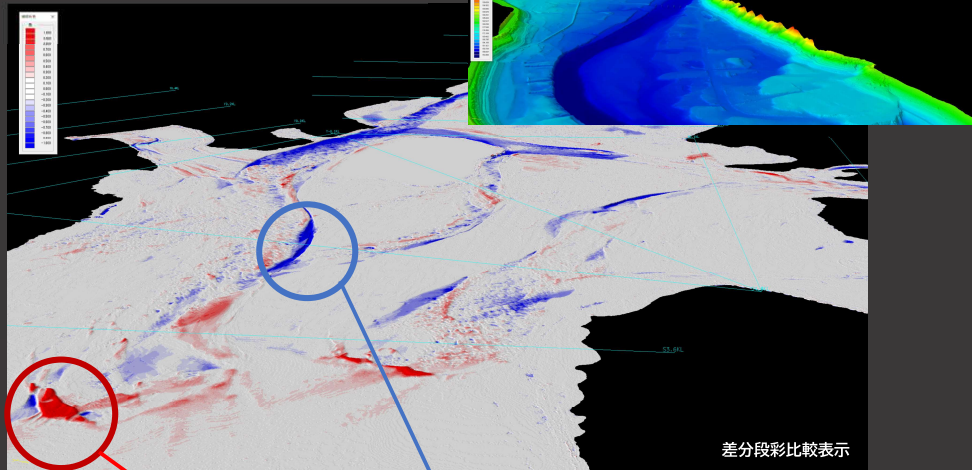


過去のデータと現在を比較

差分段彩表示機能

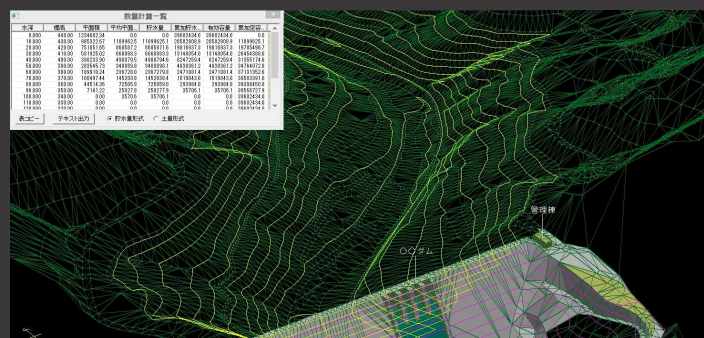
ダム管理において上流からの堆積土砂の流入が貯水量確保の上で大きな課題となっております。過去のデータと現在のデータの堆積土の差分表示を行うことで様々なものが見えてきます。堆積土量の変化や流入河川ごとの堆積土量分布や堆積エリアの傾向、また堆積した土量の算出やダムの貯水量把握に役立っております。マルチビーム測深機や音響測深機からのデータインポートも可能で、湖底形状の変化を詳細に表現します。



差分段彩比較表示

赤: 堆積したエリア 青: 掘削されたエリア

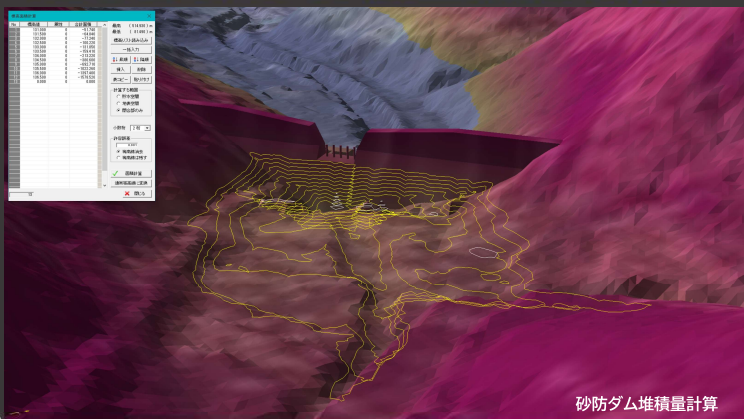
LandFormsで湖底をリサーチ



閉合等高線空間のスライス数量計算

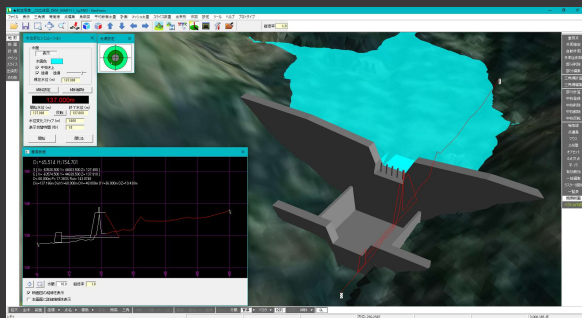
閉合する等高線から平面積を算出し、併せて標高値を加味することで指定した範囲の容積計算が可能となります。1cm単位のスライス数量計算は、沢部分や湖底細部の形状まで網羅し、より詳細な貯水量を求めることができます。また堆積エリアを可視化することは災害の多い昨今、必須と言えるでしょう。

1cm単位のスライス数量計算が実現



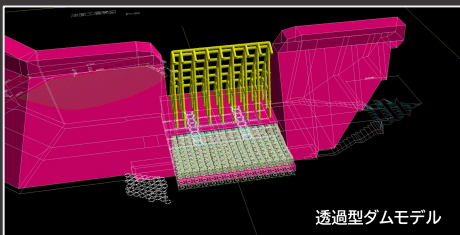
砂防ダム堆積量計算

砂防ダムでの活用事例も増加中



限界水位による浸水エリア表示

水面の高さを設定する機能で水面エリアを可視化します。その他、水位変化シミュレーションでは、指定した範囲での水位変化を自動で表示します。水面傾斜角も設定できる為、地形条件に合わせた表現が可能です。また、水面を堆積土砂に変えて表現することもできたり、透過させる機能もあります。



透過型ダムモデル



TINモデル



変状箇所入力

2D図面からのモデル化

ダムなどの構造物の設計図があればDXFデータから3次元TINモデルの作成が行えます。

水中構造物の3Dモデリング

水中にある既設構造物を点群データから3Dモデル化します。作成方法は形状に応じて様々な手法があり、自動で三角網計算してくれる機能も搭載されています。維持管理の変状情報の入力や干渉チェックなど幅広い場面で活用されています。